

原薬から製剤まで 医薬品のダイト

DAITO

2017年5月期決算説明資料

2017年7月25日（火）

東証一部:4577

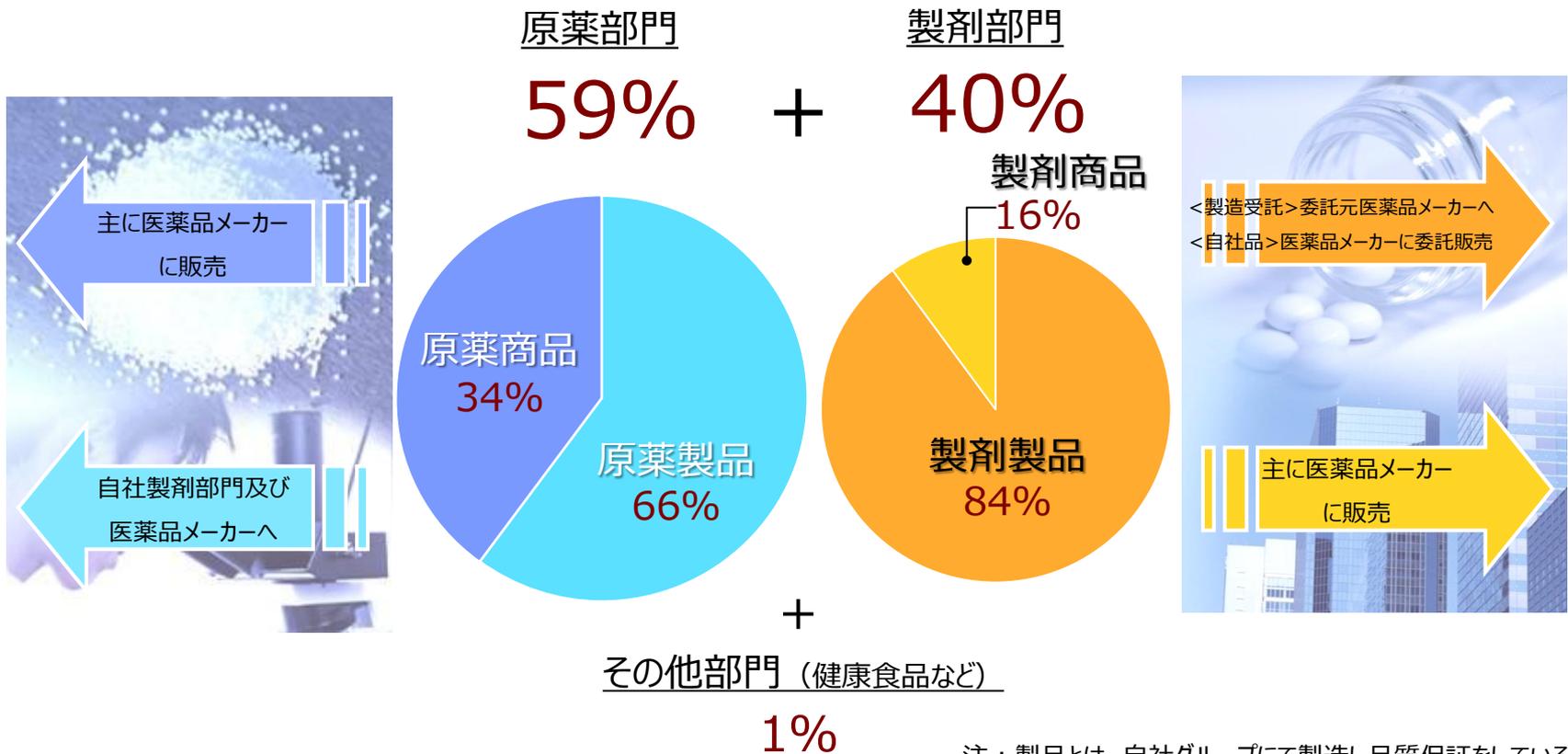
ダイト株式会社

I. 会社概要	P 3
II. 成長戦略と進捗状況	P 7
III. 決算概要と今期予想	P 20
参考資料	P31

I . 会社概要

原薬から製剤までの生産体制をベースに、 高品質な製品・商品両方の展開で顧客ニーズに対応

部門別売上構成（2017年5月期）



注：製品とは、自社グループにて製造し品質保証をしているもの
商品とは、他社から仕入れ販売しているもの

当社ビジネスモデルの特長

原薬と製剤のコラボレーション

- 原薬・製剤それぞれの営業部門の情報を共有化し、高い情報収集・提供能力を発揮
- 自社（グループ企業も含む）原薬から製剤まで製造することにより高品質と低コストを実現
- 原薬・製剤の開発データの共有化によって、より市場ニーズに合った製品の開発が可能

医薬品製造への資源集中

- 販売並びに開発に掛ける費用を抑えることにより、医薬品の製造に経営資源を集中
 - ⇒ 独自にMRは持たず、固定費の抑制
 - ⇒ 開発品目はジェネリックの原薬及び製剤のみであり、新薬に比べて開発リスク及び開発コストが低い

幅広い生産品目

- ジェネリック医薬品のみならず、新薬や長期収載品の受託製造、O T C薬の製造まで幅広くカバー
 - ⇒ 多数の品目カテゴリーを製造販売することにより、市場の成長の幅広い取り込みが可能
 - ⇒ 大手メーカーの製造受託に応えることにより、高レベルな品質・製造のノウハウを保有

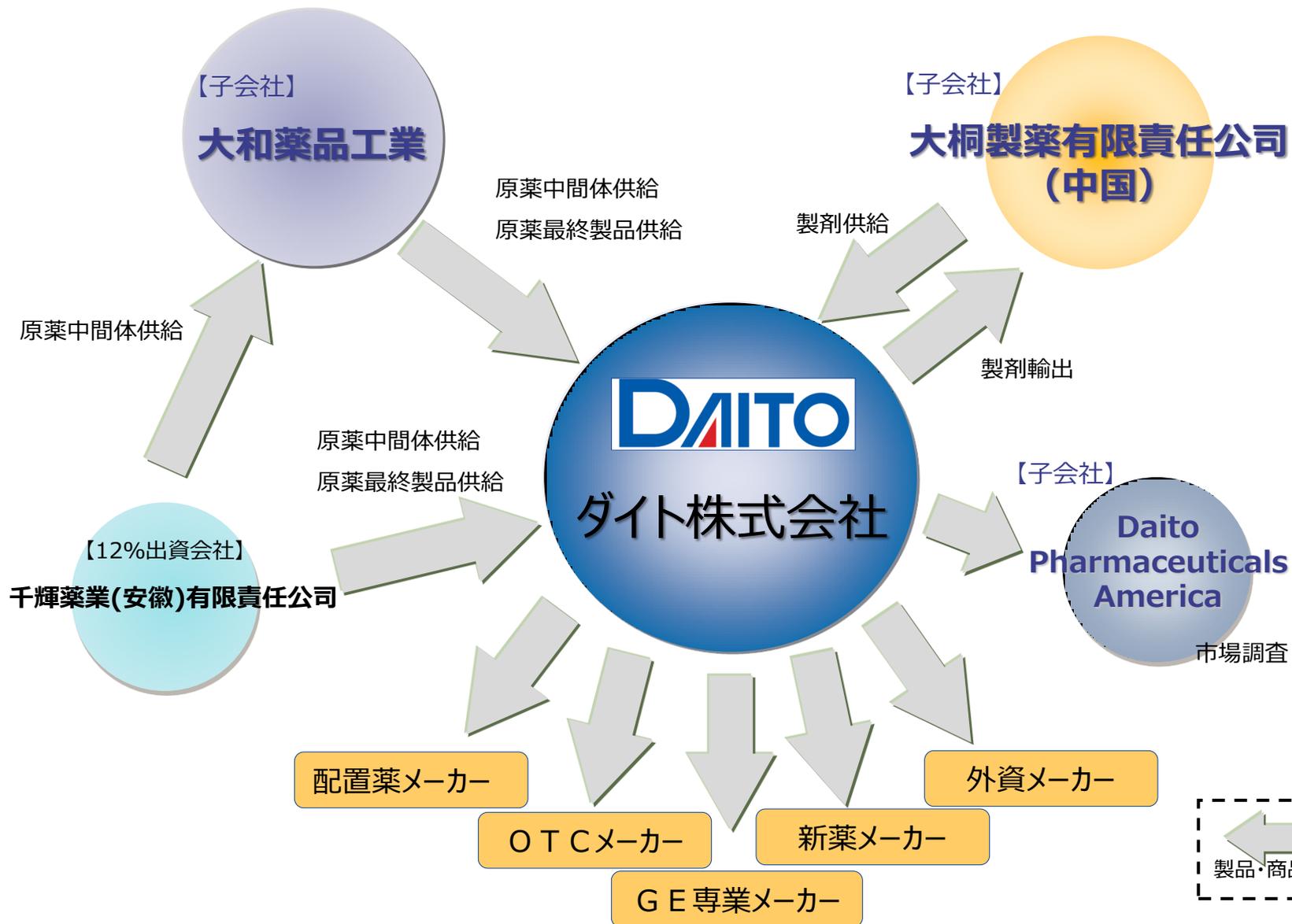
商社機能の充実

- 自社で生産していない品目であっても、国内外における独自のネットワークで他社から仕入れ販売を行う
 - ⇒ ダイトは元々商社であるため、仕入のネットワークが構築されている。販売先が必要な情報の提供を行うソリューションビジネスを展開



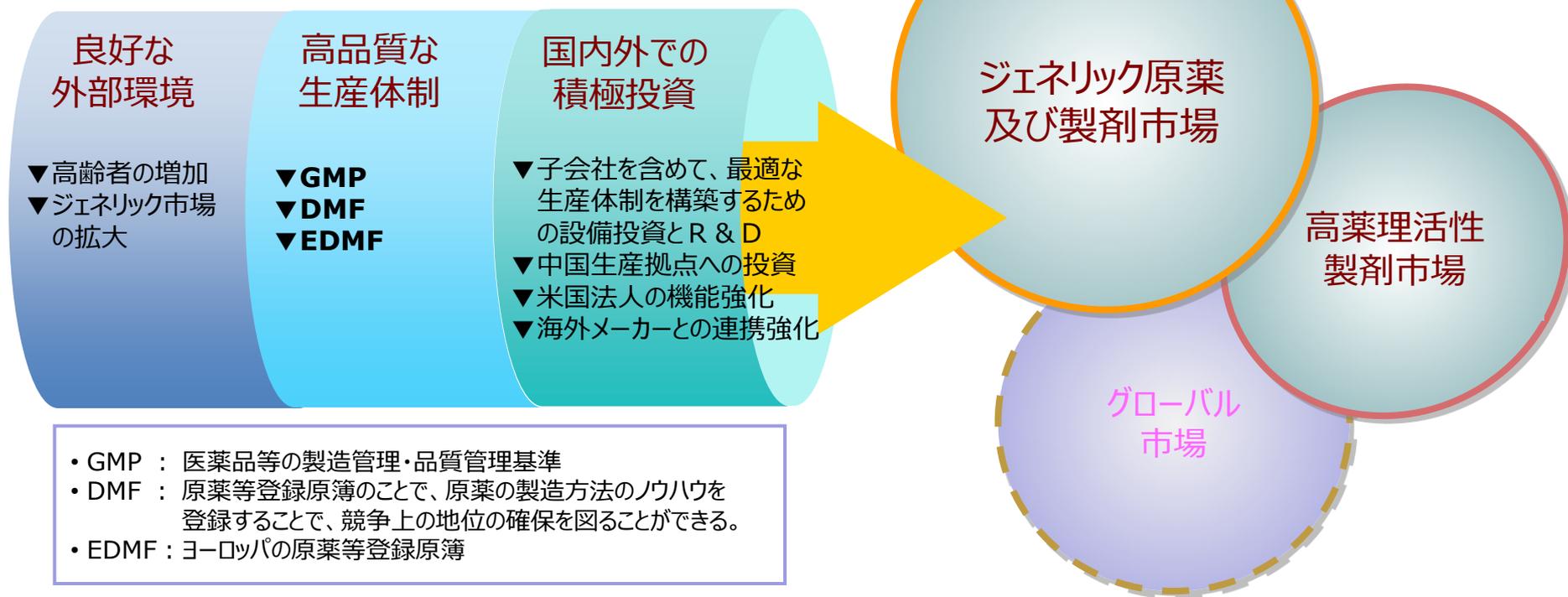
他社にはない独自のビジネスモデルを形成

当社グループ



Ⅱ．成長戦略と進捗状況

市場の追い風と高品質な製造技術をベースに、
業界ポジション確立に向けた投資を継続し、
高薬理活性領域への展開も図る。



既存ビジネス

- 当面、重点的に強化していく課題

「研究開発の強化」 (売上対比で3~4%水準、高薬理領域も着手)

「開発・生産能力増強投資を継続」 (安定供給・品目拡大)

「生産効率化の推進」

新規ビジネス

- 中長期的な成長に向けての布石

「高薬理物質への注力・拡充及び海外展開」

高薬理 R & Dセンター 2017年6月竣工、第八製剤棟 2017年10月着工

ジェネリック原薬2017/5期と2018/5期の上市品

- 2017/5期の主な上市品

(2016年6月の新規収載分)

薬効	品名
抗精神病薬	オランザピン

- 2018/5期の主な上市品

(2017年6月の新規収載分)

薬効	品名
血圧降下剤	テルミサルタン
抗精神病薬	アリピプラゾール

(2017年12月の新規収載予定分)

原薬3品目を新規収載予定

研究開発の成果 ②ジェネリック製剤

ジェネリック製剤2017/5期と2018/5期の上市品

● 2017/5期の上市品 (2016年6月及び2016年12月の新規収載分)

一般名 (規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
オランザピン錠 (2.5, 5, 10mg)	抗精神病剤	ジプレキサ錠 (イーライリリー)	ファイザー
オランザピン錠OD錠 (2.5, 5, 10mg)	抗精神病剤	ジプレキサザイデリス錠 (イーライリリー)	ファイザー
セルトラリン錠 (100mg)	抗うつ剤	ジェイゾロフト錠 (ファイザー)	科研製薬
アムバロ配合OD錠	高血圧症剤	エックスフォージ配合錠 (ノバルティスファーマ)	ファイザー
ロサルヒド配合錠HD	高血圧症剤	プレミネント配合錠HD (MSD)	科研製薬
ピタバスタチンCa・OD錠 (1, 2, 4mg)	高脂血症剤	リバロOD錠 (興和)	日本ジェネリック
モンテルカスト錠 (5, 10mg)	鼻炎治療剤	キプレス (杏林製薬)、シングレア (MSD)	科研製薬

● 2018/5期の上市品 (2017年6月の新規収載分)

一般名 (規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
テルミサルタン錠 (20, 40, 80mg)	血圧降下剤	ミカルデリス錠 (日本ベーリンガー、アステラス)	ファイザー
モンテルカスト細粒 (4mg)	抗アレルギー剤	キプレス (杏林製薬)、シングレア (MSD)	科研製薬
モンテルカストチュアブル錠 (5mg)	抗アレルギー剤	キプレス (杏林製薬)、シングレア (MSD)	科研製薬

※2017年12月発売予定品 3成分9規格

生産体制最適化への取り組み

原薬

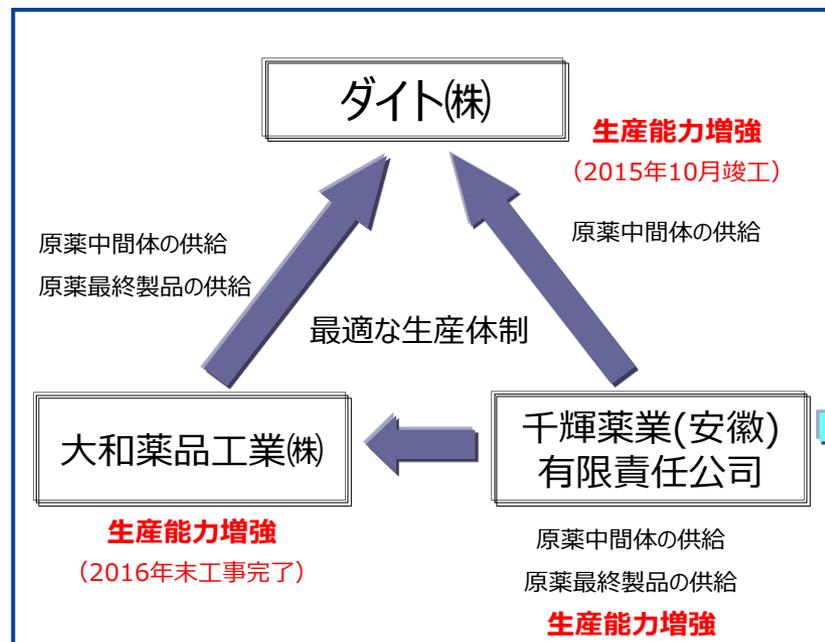
当社及び子会社の大和薬品工業(株)、関係会社の千輝薬業(安徽)有限責任公司以生産。

製剤

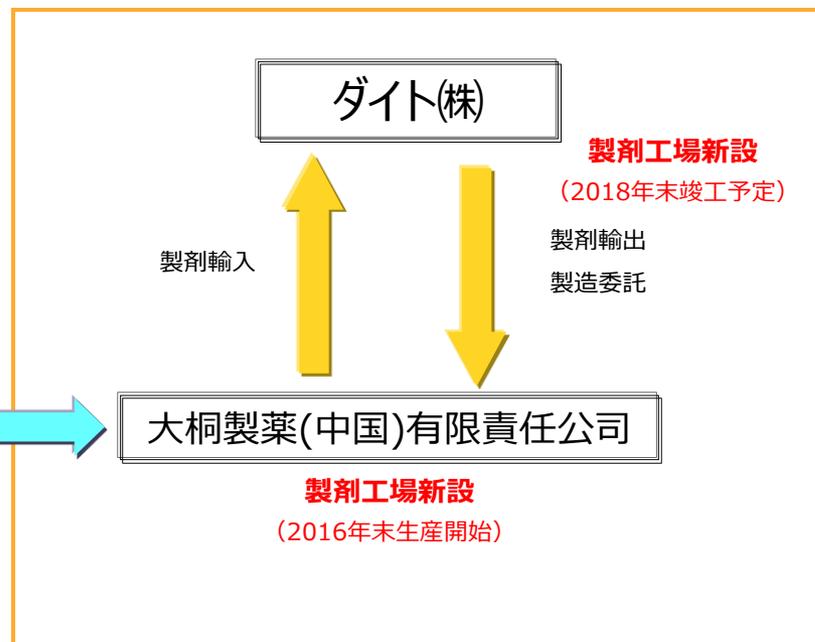
当社及び子会社の大桐製薬(中国)有限責任公司以生産。

(注) 赤文字は重点施策

原薬事業の生産体制



製剤事業の生産体制



国内外における生産能力増強投資（1）

原薬

大和薬品工業（株）

第一原薬工場
(2014年5月竣工)



- ・投資額 約11億円
- ・建設工期 2013年8月着工、2014年5月竣工
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造4F。工場延べ床面積約1,712㎡
- ・**生産ラインの増強**
約8億円を投資し、生産ラインの増設工事を2016年5月より開始し、2016年末に工事完了。

本社

第六原薬棟
(2015年10月竣工)

第三原薬包装棟
(2015年10月竣工)



- ・投資額 原薬棟 約19億円、包装棟 約12億円
- ・建設工期 2014年12月着工、2015年10月竣工
- ・生産能力 従来比+20%増
- ・稼働開始 2016年2月

国内外における生産能力増強投資（2）

製剤

大桐製薬(中国)有限責任公司

新製剤工場 (2014年11月竣工)



- ・投資額 約8億円
- ・生産能力 約1億錠/年
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造4F
工場延べ床面積約11,635㎡
- ・建設工期 2013年7月着工、2014年11月竣工
- ・生産開始 2016年末

本社

高薬理製剤棟（第七製剤棟） (2014年12月竣工)



高薬理活性固形製剤の治験薬製造及び
製剤から包装までの一貫製造体制。

- ・投資額 約15億円
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造2F
工場延べ床面積577㎡
- ・建設工期 2014年5月着工、2014年12月竣工
- ・機能と目的 1ロットあたり15～30kgの中規模スケールの高薬理活性製剤の製造

高薬理活性製剤への投資

本社

高薬理R & Dセンター

(2017年6月 竣工)



- ・投資額 約17億円
- ・建設工期 2016年8月 着工
2017年6月 竣工

・機能と目的

当社の成長戦略に据えております、高薬理活性領域における製剤及び原薬の研究開発体制の整備・強化を図ります。また、小規模スケール（1～10kg）の製剤製造設備を備えており、大手メーカーの治験薬製造受託や自社ジェネリック品の開発などを積極的に行います。

本社

第八製剤棟

(2018年12月 竣工予定)



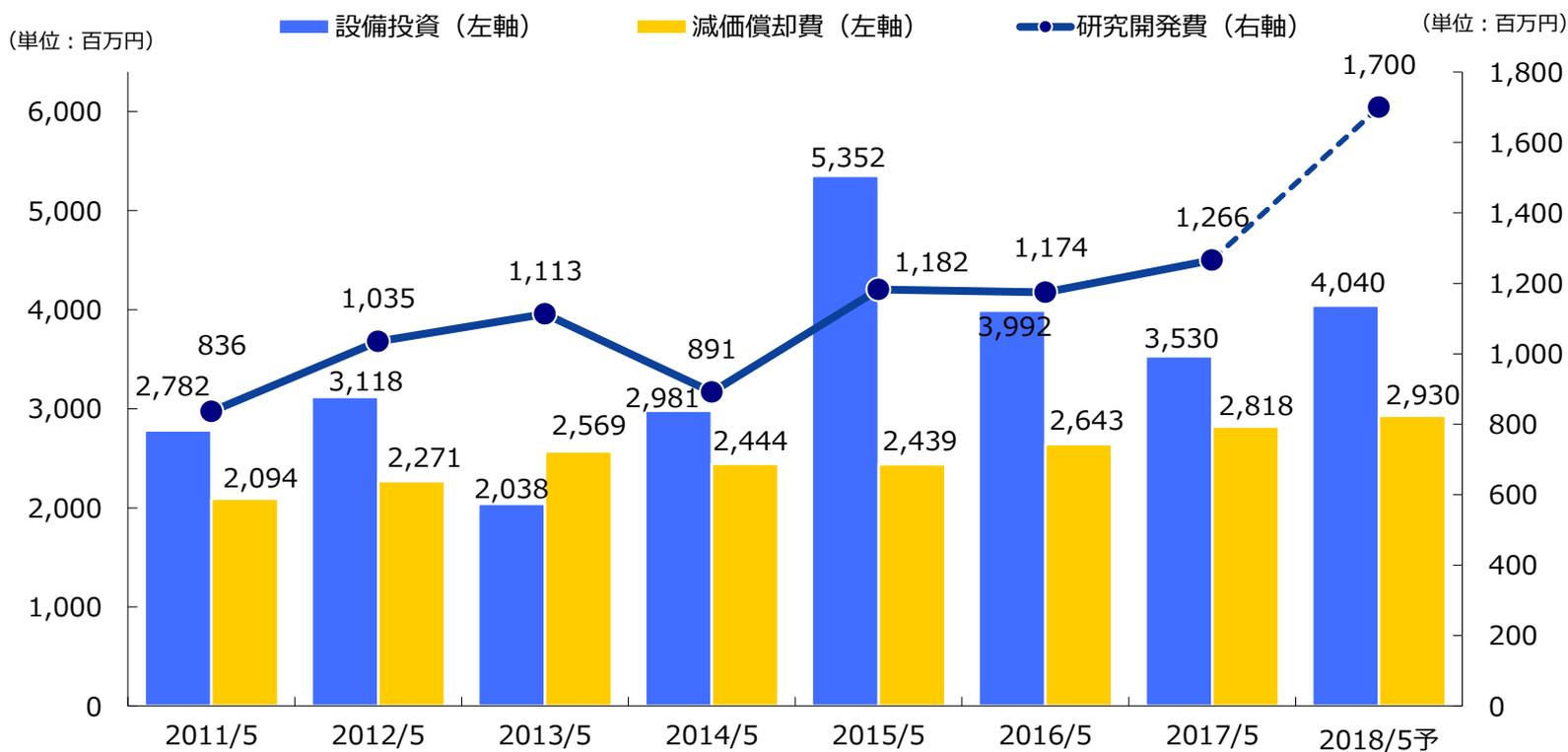
- ・投資額 約35億円
- ・建設工期 2017年10月 着工予定
2018年12月 竣工予定

・機能と目的

既存の第七製剤棟と合わせ、高薬理活性領域における製剤の製造体制を強化します。第八製剤棟では第七製剤棟よりもスケールが大きい1ロットあたり40～70kg程度の製剤を製造いたします。これにより、小・中・大スケールの製造設備を保有することになります。

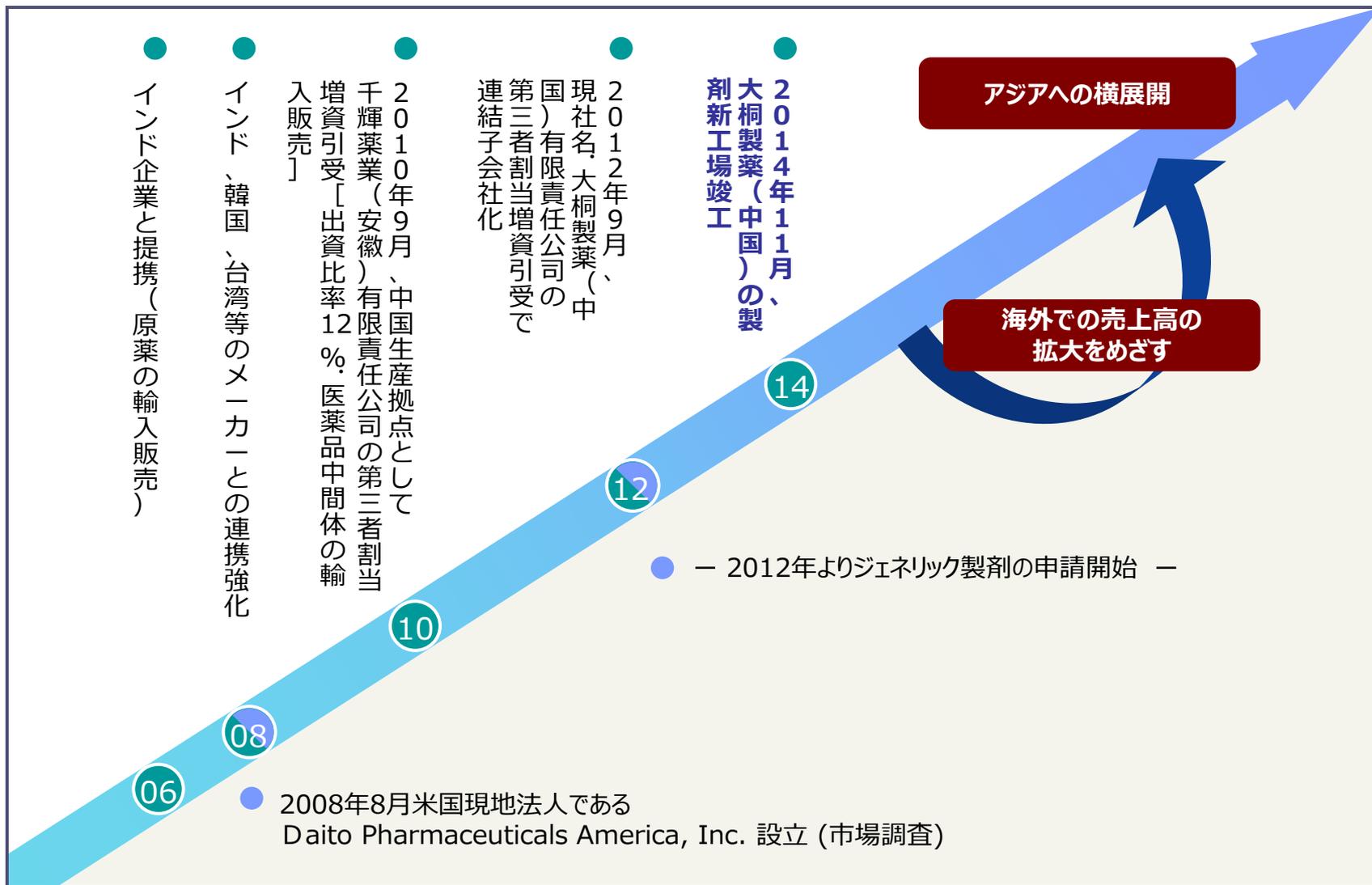
設備投資額・研究開発費の推移

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



※連結ベース。設備投資金額は発生ベースで記載(有形・無形を含む)

グローバル展開



国内ジェネリック医薬品を取り巻く環境

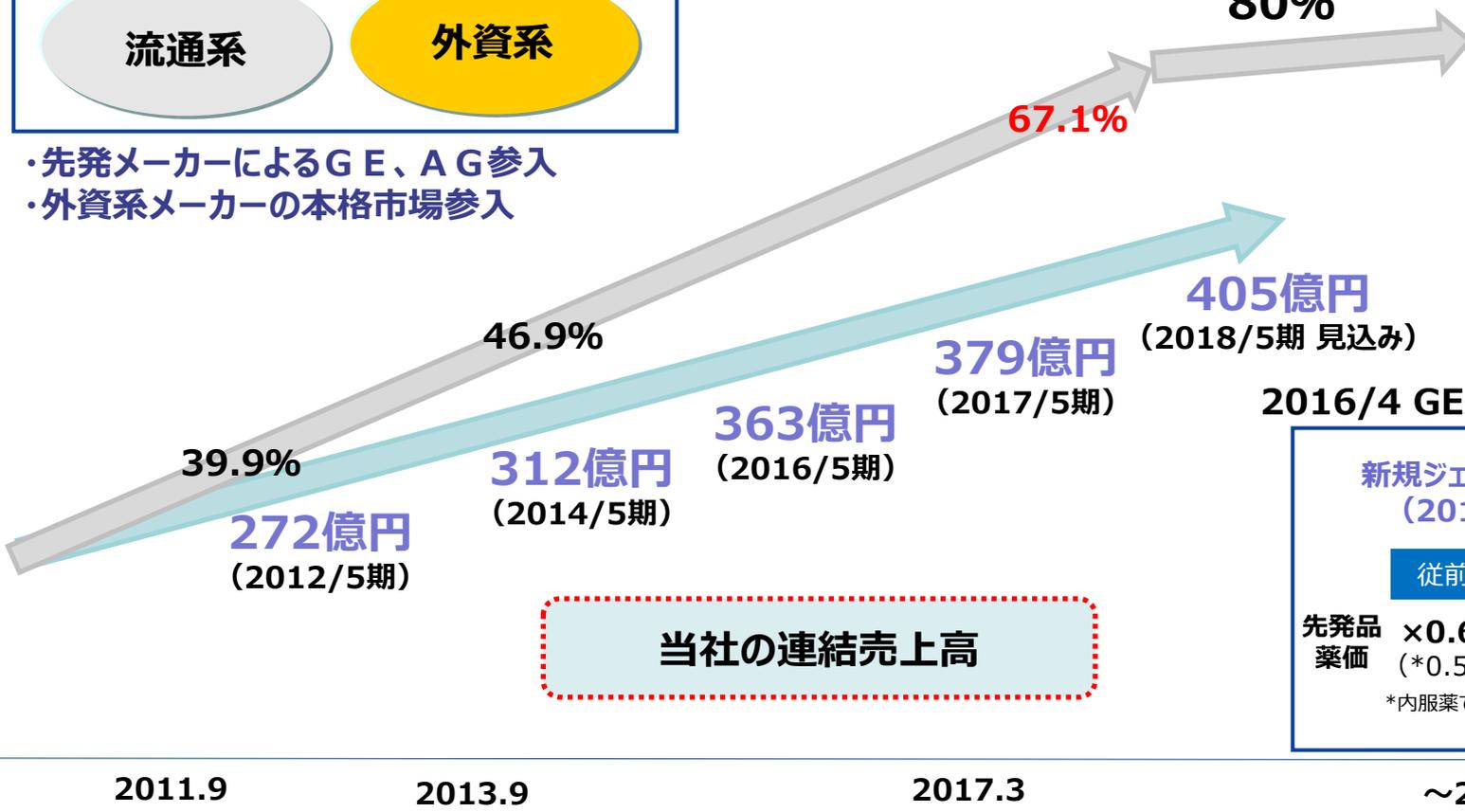
国内ジェネリック医薬品業界



- ・先発メーカーによるGE、AG参入
- ・外資系メーカーの本格市場参入

骨太方針2017の政府目標

国内ジェネリック比率
80%



2016/4 GE薬価ルールの変更

新規ジェネリック品薬価 (2016/4以降)	
従前	改正
先発品薬価 ×0.6 (*0.5)	×0.5 (*0.4)

*内服薬で10品目越えの場合

当社の連結売上高

生産体制の最適化に取り組み、高品質・低コストを武器に、国内およびグローバル展開への布石をうつ

- **高薬理活性固形剤の生産体制拡充**
- **新增設設備の早期フル稼働体制構築**
- **低コスト原薬製造プロセスなどの開発**
- **ジェネリック原薬、製剤の開発加速**

Ⅲ. 決算概要と今期予想

決算ハイライト

- 17/5期は、4.4%増収、7.8%営業増益、4.4%経常増益。
- 国内G E市場の拡大に伴い、原薬・自社開発製剤販売ともに堅調。
- 円高に伴う原材料コストの低減と販売量増加で利益面は期初計画クリア。

(単位：百万円、%)

	2016/5期		2017/5期		前期比増減		期初予想比 (%)
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%	
売上高	36,370	100.0	37,984	100.0	+1,614	+4.4	△0.3
営業利益	3,555	9.8	3,832	10.1	+277	+7.8	+3.6
経常利益	3,713	10.2	3,878	10.2	+165	+4.4	+3.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,566	7.1	2,656	7.0	+90	+3.5	+2.2
EPS (円)	205.07	-	212.26	-	+7.19	-	-
配当金(円/株)	30.0	-	33.0	-	+3.0	-	-
研究開発費	1,174	-	1,266	-	+92	-	-
減価償却費	2,643	-	2,818	-	+175	-	-
設備投資額	3,992	-	3,530	-	△462	-	-

部門別売上高

- G E 原薬は、消化性潰瘍剤や解熱鎮痛消炎剤が堅調に推移し前期をやや上回ったが、対計画では未達。
- 製剤は、製造受託の減少を自社 G E 医薬品の販売増加で補った。

(単位：百万円)

	2016/5期		2017/5期		前期比増減		計画達成率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%	
原 薬	21,687	59.6	22,263	58.6	+576	+2.7	95.3
製品	13,793	37.9	14,616	38.5	+823	+6.0	94.6
商品	7,894	21.7	7,647	20.1	△247	△3.1	96.8
製 剤	14,341	39.4	15,372	40.5	+1,031	+7.2	106.8
製品	12,180	33.5	12,941	34.1	+761	+6.2	105.2
商品	2,161	5.9	2,431	6.4	+270	+12.5	115.8
健康食品他	341	1.0	348	0.9	+7	+2.1	99.4
売上高合計	36,370	100.0	37,984	100.0	+1,614	+4.4	99.7

要約損益計算書

(単位：百万円、%)

	2016/5期		2017/5期		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売上高	36,370	100.0	37,984	100.0	+1,614	+4.4
売上原価	29,143	80.1	30,243	79.6	+1,100	+3.8
売上総利益	7,226	19.9	7,741	20.4	+515	+7.1
販管費	3,670	10.1	3,908	10.3	+238	+6.5
営業利益	3,555	9.8	3,832	10.1	+277	+7.8
営業外損益	158	0.5	47	0.1	△111	△70.3
経常利益	3,713	10.2	3,878	10.2	+165	+4.4
特別損益	△288	△0.8	7	0.0	+295	-
税引前利益	3,426	9.4	3,885	10.2	+459	+13.4
法人税等	878	2.4	1,258	3.3	+380	+43.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,566	7.1	2,656	7.0	+90	+3.5

原価率

●減価償却費負担は増加しましたが、円高に伴う原材料費下落などにより原価率はやや改善。

営業外損益

●為替差損の増加。

特別損益

●前期は火災損失を計上

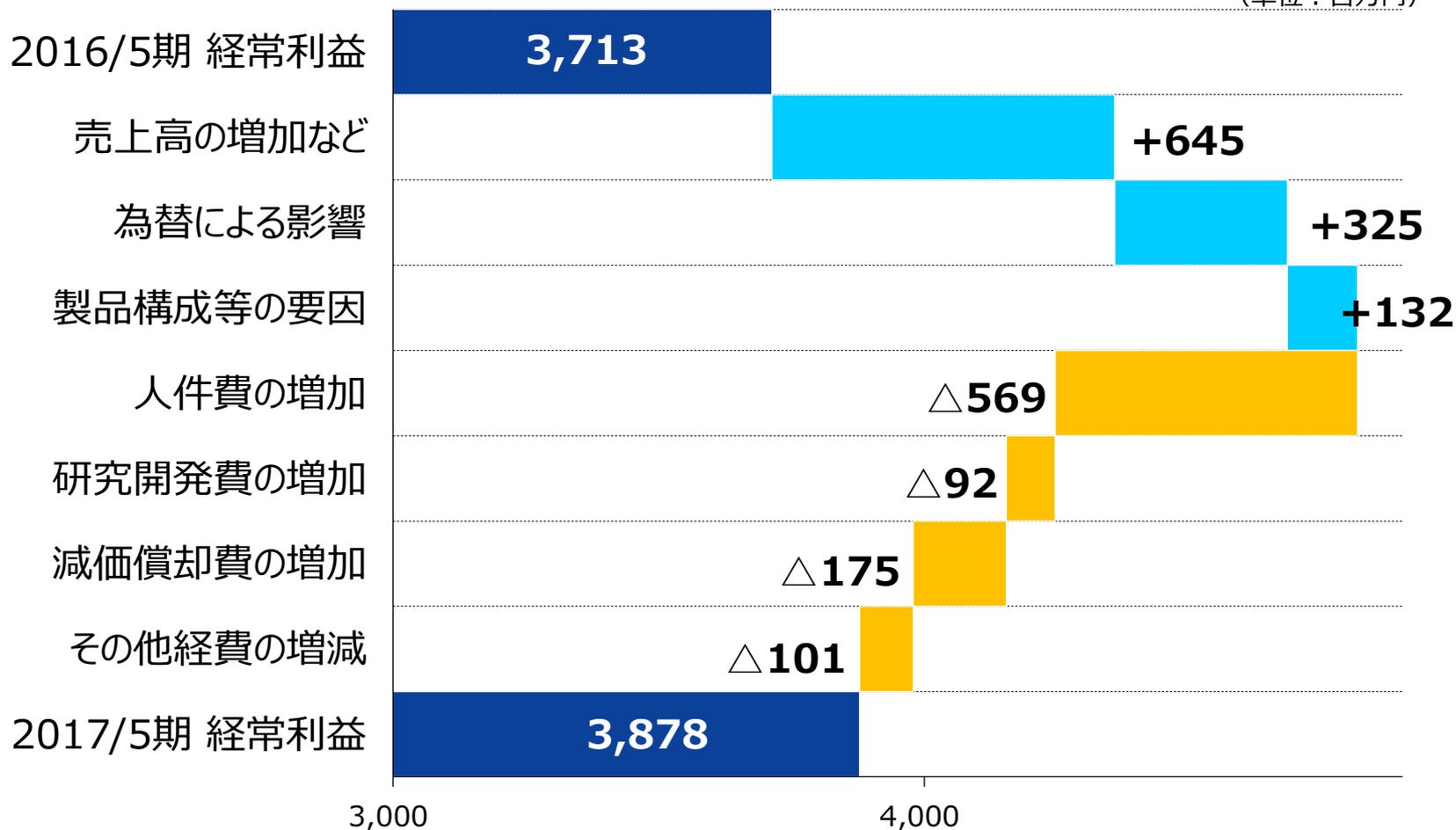
法人税等

●前期の優遇税制の効果が消失したため。

※売上原価には、返品引当金繰入額を含む

経常利益の増減分析

(単位：百万円)



要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2016/5末	2017/5末	増減額
流動資産	22,080	24,345	+2,265
現金及び預金	1,351	1,617	+266
売上債権*	12,886	13,588	+702
棚卸資産	6,984	8,492	+1,508
固定資産	21,259	21,362	+103
有形固定資産	17,446	17,878	+432
資産合計	43,340	45,707	+2,367
流動負債	15,065	15,234	+169
仕入債務*	4,324	5,463	+1,139
短期有利子負債	6,327	4,804	△1,523
固定負債	4,713	4,659	△54
長期有利子負債	3,692	3,711	+19
負債合計	19,779	19,894	+115
純資産合計	23,560	25,813	+2,253

棚卸資産 +15億円

- 商品及び製品 +4億円
- 仕掛品 +8億円
- 原材料及び貯蔵品 +3億円

短期有利子負債 △15億円

- 短期借入金 △15億円

純資産 +22億円

- 当期純利益 +26億円
- 評価換算差額等 △1.7億円

*：電子記録債権、電子記録債務を含む

要約キャッシュフロー計算書

- 営業C Fは50億円の受取超過、投資C Fは30億円の支払超過。
- 有利子負債減少で、財務C Fは17億円の支払い超過。

(単位：百万円)

	2016/5期	2017/5期
営業キャッシュ・フロー	2,948	5,069
税引前利益	3,426	3,885
減価償却費	2,643	2,818
売上債権の増減額 (△は増加)	829	△711
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,631	△1,508
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,111	△90
法人税等の支払額	△1,411	△767
投資キャッシュ・フロー	△4,015	△3,011
有形固定資産の取得による支出	△3,948	△2,992
財務キャッシュ・フロー	526	△1,777
短期・長期借入金のネット収支	997	△1,455
現金及び現金同等物の期中増減額	△567	266
現金及び現金同等物の期末残高	1,351	1,617

2018年5月期 業績予想

- 2018年5月期は、6.6%増収、7.0%営業増益の予想。
- 政府のG E 使用促進策の浸透で、国内G E 市場の拡大が続く見込み。
- 減価償却費や開発費など、費用増加を予想。

(単位：百万円、%)

	2017/5期		2018/5期 予想		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売上高	37,984	100.0	40,500	100.0	+2,516	+6.6
営業利益	3,832	10.1	4,100	10.1	+268	+7.0
経常利益	3,878	10.2	4,150	10.2	+271	+7.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,656	7.0	2,850	7.0	+194	+7.3
EPS (円)	212.26	—	227.7	—	+15.44	—
配当金(円/株)	33.0	—	30.0	—	△3.0	—
研究開発費	1,266	—	1,700	—	+434	—
減価償却費	2,818	—	2,920	—	+102	—
設備投資額	3,530	—	4,040	—	+510	—

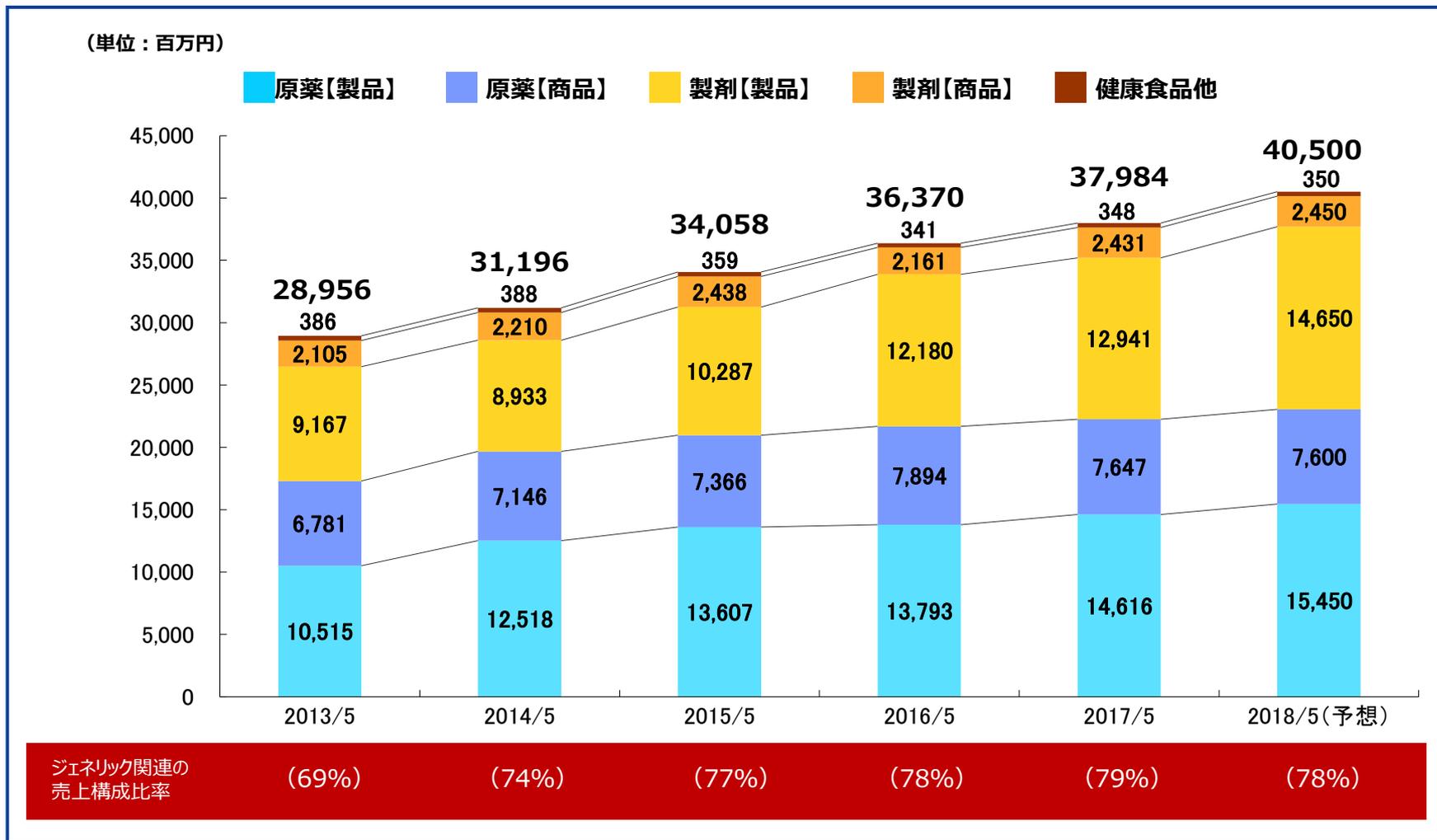
2018/5期 部門別売上予想

- 原薬製品は、新工場の稼働による生産力アップで増収を計画。
- 製剤は、G E 製剤、長期収載品の受託ともに増加を計画。

(単位：百万円)

	2017/5期		2018/5期 計画		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
原 薬	22,263	58.6	23,050	56.9	+787	+3.5
製品	14,616	38.5	15,450	38.1	+834	+5.7
商品	7,647	20.1	7,600	18.8	△47	△0.6
製 剤	15,372	40.5	17,100	42.2	+59	+11.2
製品	12,941	34.1	14,650	36.2	+1,728	+13.2
商品	2,431	6.4	2,450	6.0	+19	+0.8
健康食品他	348	0.9	350	0.9	+2	+0.6
売上高合計	37,984	100.0	40,500	100.0	+2,516	+6.6

部門別売上高の推移と予想



- **当社は、事業価値の持続的増大と、それによる株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題として位置づけております。**
- **利益還元は、当該期の業績に加え、今後の成長投資や財務体質の強化を考慮し、安定的な配当実施を重視しております。**



2018/5期の年間配当金は、1株当たり30円を予定。

参考資料

社 名 : ダイト株式会社

本社所在地 : 富山県富山市八日町326番地

設立年月 : 1942年6月

決算期 : 毎年5月末

代表者 : 代表取締役社長 大津賀 保信 (おおつが やすのぶ)

従業員数 : 726名 (平均臨時雇用者数32名 外数) ※連結、2017年5月31日現在

事業内容 : 原薬及び製剤の製造販売・製造受託・仕入販売、健康食品等の販売

子会社 : 大和薬品工業株式会社 (原薬の製造)

Daito Pharmaceuticals America, Inc. (原薬・製剤の輸出業務支援)

大桐製薬(中国)有限責任公司 (中国での製造)

DAITO

ダイト株式会社

当社は、人々の健やかな生活と、成長を目指し、高品質な医薬品の安定供給に努め、日々邁進しています。

Next Phase

選ばれ続ける企業へ

みなさまからの信頼、サポートに感謝し、誠実を基本とした6つの理念を持ち、ずっと選ばれ続ける企業を目指します。



- | | |
|-----------|---------------------------|
| 誠実な姿勢 | 法令を遵守し公正公平に活動します |
| みなさまからの信頼 | 更なる品質の向上とお客さまへの確実な供給を行います |
| 社会への貢献 | 日々の活動を通しみなさまを支えます |
| 環境との調和 | 環境に配慮し地球とともに歩みます |
| 更なる挑戦 | 新たな分野 新たな技術へ挑戦します |
| 世界への飛躍 | 世界を舞台として優れた医薬品を提供します |

1942年 6月	富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制会社として大東亜薬品交易統制株式会社を設立 ※1991年 ダイト株式会社(現社名)に商号変更
1949年 3月	配置用医薬品製造を開始
1950年 6月	原薬卸業部門を開設し、原薬の販売を開始
1963年 5月	大阪市東区に大阪営業所を新設 ※1973年12月 大阪支店に昇格。1987年8月 中央区に移転
1965年 4月	東京都千代田区に東京営業所を新設 ※1970年9月 東京支店に昇格
1976年 10月	医療用医薬品(ジェネリック医薬品)の製造を開始
1979年 11月	原薬の製造を開始
1985年 4月	O T C 医薬品の製造を開始
1987年 7月	大和薬品工業株式会社を子会社化 ※2007年10月 株式交換により完全子会社化
1989年 10月	原薬の新薬中間体の受託製造を開始
2001年 9月	医療用医薬品の受託製造を本格的に開始
2007年 11月	米国イリノイ州に駐在員事務所を設置 ※2008年6月 廃止
2008年 6月	Daito Pharmaceuticals America, Inc.設立
2010年 3月	東京証券取引所市場第2部に上場
2011年 3月	” 第1部に指定
2012年 9月	安徽微納生命科学技术開発有限責任公司を子会社化 [現社名：大桐製薬(中国)有限責任公司]

設備の状況

1949年 事務所・工場を新設

1971年 研究所を富山市に新設
※1985年同研究所を本社工場の隣接地に新設・移転

1979年 第一製剤棟を新設

1979年 原薬実験棟を新設

1985年 第二製剤棟を新設

1982年 第一原薬棟を新設

1986年 原薬包装棟を新設

1989年 第一物流センターを新設

1989年 第二原薬棟を新設

1993年 第三製剤棟を新設

1995年 第二物流センターを新設

1999年 第三原薬棟を新設

2001年 第五製剤棟を新設

2001年 第三物流センターを新設

2003年 第二包装棟を新設

2007年 第五原薬棟を新設

2007年 第三包装棟を新設

2007年 第五物流センターを新設

2008年 第六製剤棟を新設

2011年 厚生棟を新設

2012年 第五原薬棟設備を増設

2014年 大桐製薬(中国)に製剤棟新設

2014年 大和薬品工業(株)に原薬工場棟新設

2014年 高薬理製剤棟新設

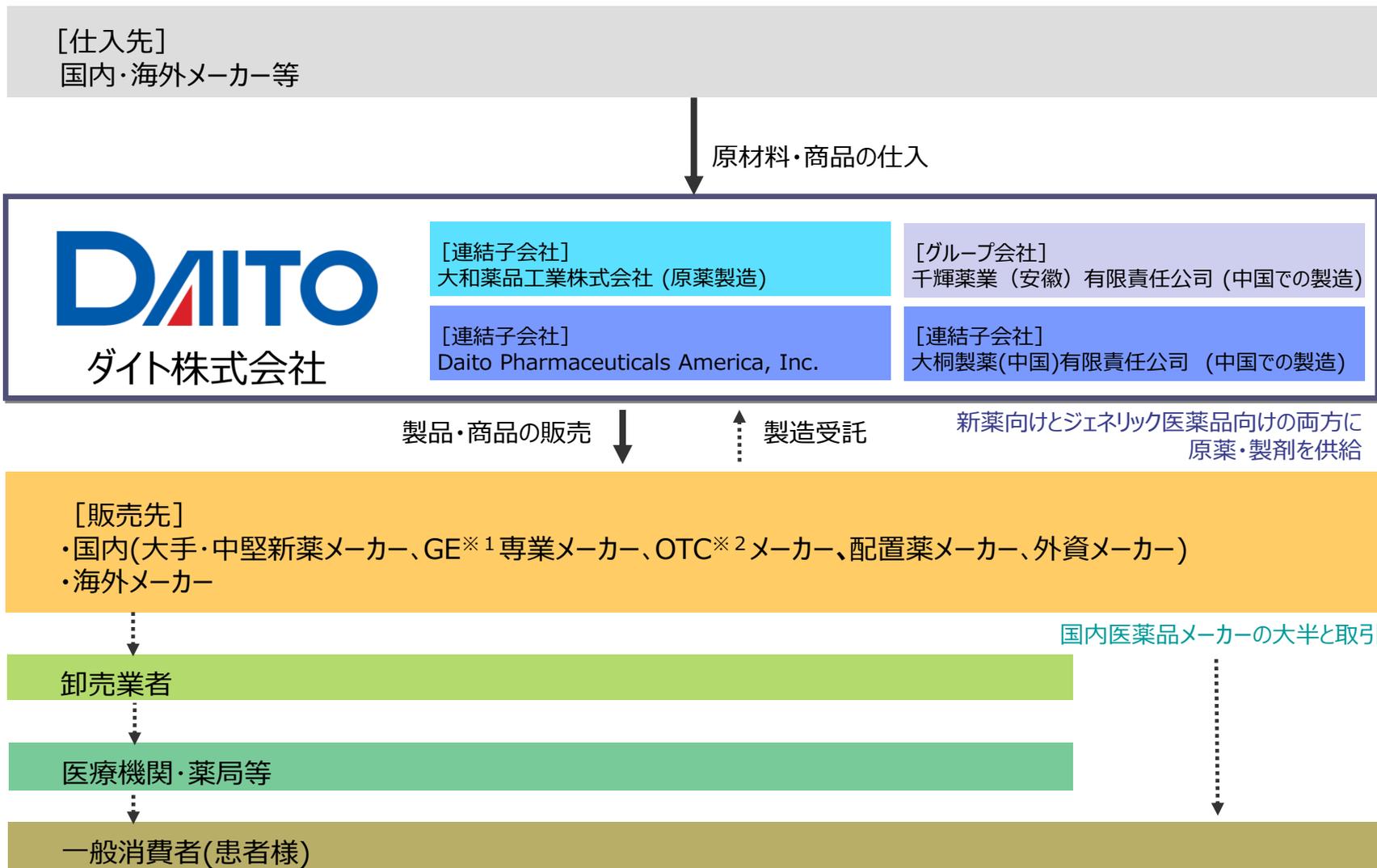
2015年 第六原薬棟完成

2016年 原薬工業化プロセス研究棟新設

2015年 第三原薬包装棟完成

2017年 高薬理 R & D センター新設

事業内容



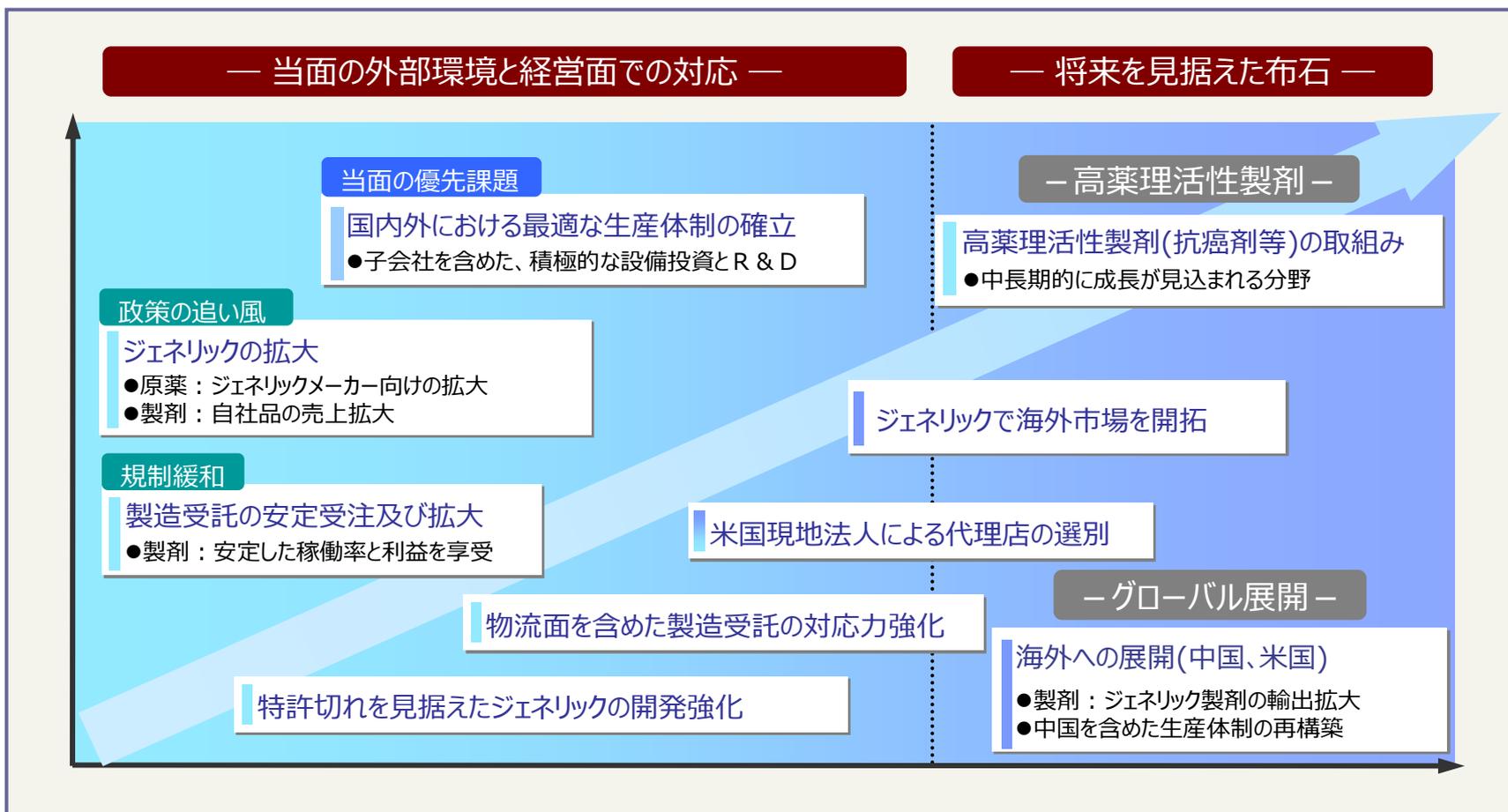
注1：“Generic”の略で、先発品の特許が切れた後、同じ成分で安価に販売される医薬品のことを指す。
注2：“Over the counter”の略で、医師の処方を受けずに販売・購入できる、大衆医薬品のことを指す。

参入障壁が低い業界だが、
当社のような独自のビジネスモデルを確立しているメーカーは少ない

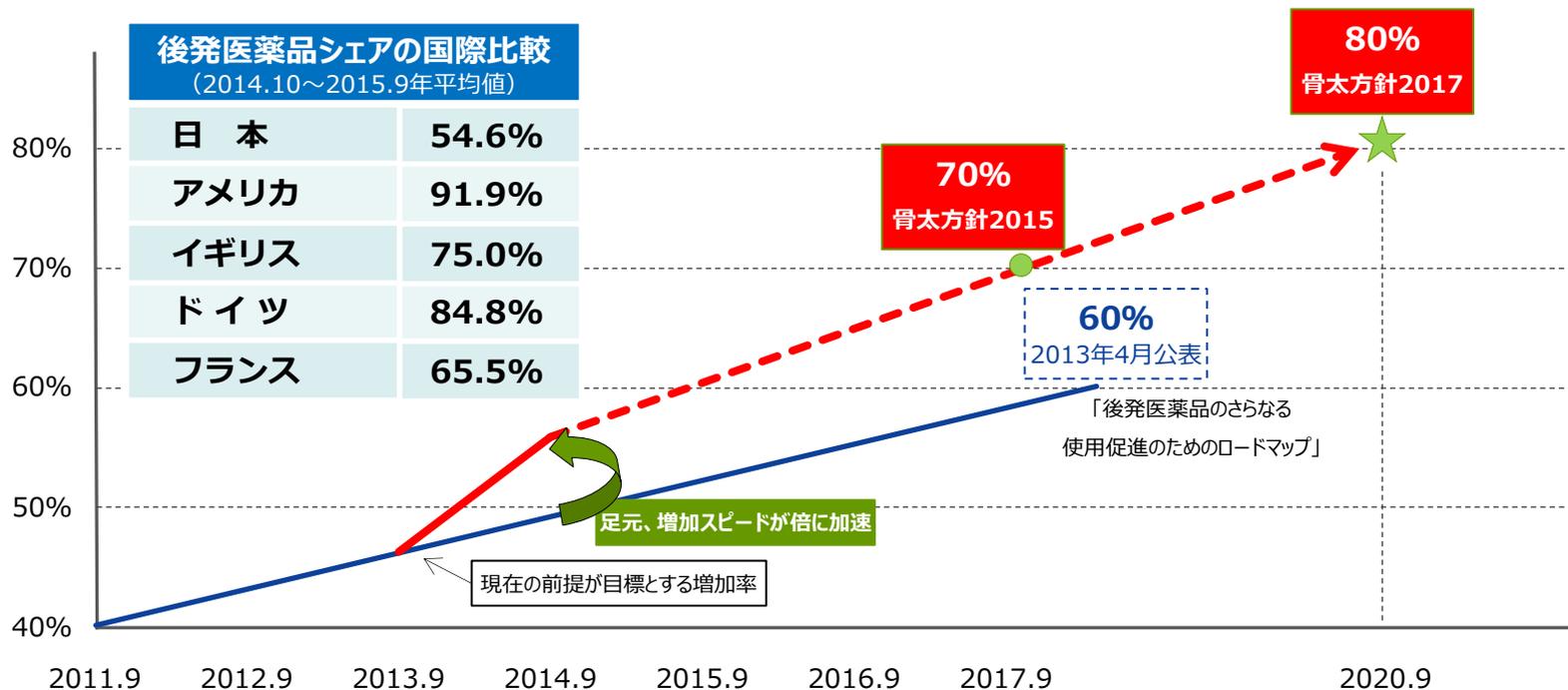


※注：医薬品等の製造管理・品質管理基準。

国内外での最適な生産体制構築に加え、 グローバル展開や新分野開拓で更なる成長を目指す



ジェネリック医薬品の数量シェア目標



数量シェア拡大に向けた追加措置候補

- 安定供給策
- 品質等に関する信頼性向上策
- 情報提供の充実策
- 診療報酬上の措置

国民負担軽減策候補

- ジェネリック医薬品の薬価算定ルールの見直し
- 長期収載品の保険制度による評価見直し

(出所) 骨太の方針2015、骨太の方針2017を基に作成

この資料は投資家の皆様の参考に資するため、ダイト株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、説明会開催日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資を行う際は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



原薬から製剤まで 医薬品のダイト

ダイト株式会社 経営企画室

TEL : 076-421-8755

FAX : 076-421-5691